



寒河江 宏一 議員

金山町の災害対策の課題は

回答 自主防災組織と町民の防災意識を高めることが重要

タブレットを活用し、防災訓練の在り方も含め効果的な取組を進める。

総務課長 非常用電源設備及び更新となる高圧受電設備キュービクル、多目的に活用できる。発電機は、停電時に

役場庁舎全体を72時間以上稼働できる設備でなければならぬため東北電力との契約電力の3倍程度(160キロワット)を出力できる規模が必要。燃料は入手が容易な軽油で、3000ℓ規模の地下タンクを想定している。建設場所は、旧岸邸の役場庁舎側かつ道路側に寄せた配置で必要最小限の規模とし、消防法に準拠したコンクリートの建屋を想定している。

豪雨災害(7/25)の課題と対策は

寒河江宏一議員 金山町の災害時の課題は何か。

町長 災害時の課題に公助、共助、自助がある。

公助については、他の自治体では既にある役場庁舎の非常用電源が無く、また適切な規模の備蓄を行う必要がある。避難所の収容人数も、町の指定避難所以外の選択肢についても検討が必要である。さらに、学校と連携しながら防災教育に取り組む考えである。

共助については、各地区自主防災組織と連携して災害リスクを認識し、役割分担など組織の体制づくりを改めて進めていく必要がある。自助については、先日の大雨で初めて避難指示を発令したが、今後より危険な状況が生じた場合、適切に避難する必要がある。

寒河江議員 今後の対策は。
町長 自主防災組織と町民の災害意識を高めるため、町からの積極的な働きかけが重要と考える。また、今年度配布する

非常用電源装置が無い自治体は金山町のみであり、令和7年度に設置工事を実施する予定である。
寒河江議員 どのような機能の設備を想定しているのか。



非常用発電装置設置予定地

事業費は、2億5千万円で起債の約7割が国から交付税措置を得られる緊急防災対策債の予定である。

金山町も「災害の無い町」とは言えないのでは

回答 平時から十分な準備を行なう



五十嵐 優一 議員

警戒本部の動きは

五十嵐優一議員 7月25日の大雨による土砂災害警戒情報が発表され、避難指示が発令し、地域福祉センター「やぐし苑」を避難所として開設した。町及び防災関係機関等の業務状況は。

町民税務課長 25日当日は、8時30分に金山町警戒本部を設置して最初の会議を開催した。当町では初めての避難指示を9時15分に発令することを決定し、やぐし苑を避難所として開設した。

合わせて7回の会議では、道路や農地等の

パトロール、避難所への避難の状況・学校の一斉下校の対応なども報告された。町民からの多数の被害の連絡に對しては、消防団からも土のう積みなど対応した。

関係機関の状況は、警戒本部会議には消防団長も参加し、各消防団にもいつでも出動できる指示をすることにも、注意喚起の巡回も行なった。また、消防支署及び駐在所とも随時、被害状況等の共有を行った。

更には、総合支庁から派遣された連絡員も警戒本部会議に参加し、会議の状況を随時、県の防災担当に報告をした。

避難所運営の課題は

五十嵐議員 避難所の状況・課題は。
健康福祉課長 金山町地域福祉センター「やぐし苑」に避難された



避難所設営状況(改善センター)

方の最終的な人数は、15世帯31人となり、職員体制は、交代しながら概ね8人体制で対応した。
避難所開設及び運営は、概ねスムーズに対応できたと考えているが、避難スペースの区分やペット同伴避難等への対応は、今後、更に検討が必要と考えている。

環境整備課長 河川を横断している水道配水管等は、57箇所ある。水管橋の橋台下部が河川の氾濫により周囲の碎石や土が流された結果、漏水による断水事故も発生するなど、水害対策を強化する必要がある。
事故後の仮設管の設置方法の検討と整理を行うほか、急復旧用の管路資材の備蓄を強化するとともに、水道工事業者と連携した応急復旧訓練も災害時の有効な対策として実施する。



破損した水道管

復旧・復興に向けた支援は

五十嵐議員 災害ボランティアセンターの設



災害ボランティアセンター(戸沢村)

置・運営に対する支援は。
町長 大規模災害が発生した場合、災害対策の本部の要請を受け、金山町社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置し、運営する。
センター開設の初期段階は、現在の社会福祉協議会の職員体制だけでは、対応が難しく、県の社会福祉協議会や各市町村からの支援に加え、役場からの応援スタッフの派遣も必要と考えており、7月の大雨災害時にも、戸沢村と鮭川村の災害ボランティアセンターの運営に職員を派遣し、研修を重ね活動経験をした。